

1.5 サルの行動観察体験（3年生物分野）

(1) 研究開発の概要

生物の学習で重要なのは本物を見るということである。生物Ⅰには「動物の行動」という単元があり、理系生物選択者は2年次に、文系生徒は3年次最初にこの部分を学習する。今年度も引き続き、京都大学霊長類研究所の古市先生のご協力を得て、ニホンザルの行動観察実習を実現することができた。

(2) 仮説（ねらい、目標）

- ア ニホンザルなどの行動観察を行い、それを記録・考察することで、研究の方法を学ぶ。
- イ 講義から、現在の霊長類研究の最新の知見を得る。
- ウ 実習や講師の先生との対話を通して、研究に対する姿勢や情熱を学ぶ。また真理の追究に向け主体的に探究する態度を身につける。

(3) 研究の方法および内容

- ア 対象生徒 2・3年理系生物選択者、生物部の希望者11名
- イ 実施日程 7月14日（土）
- ウ 実施場所 京都大学霊長類研究所
- エ 講師 京都大学霊長類研究所 教授
古市 剛史 先生



チンパンジーの観察

オ 実施内容

- (ア) 講義Ⅰ 霊長類の進化、ニホンザルについて
- (イ) ビデオ 『ニホンザルの四季』の視聴
- (ウ) 講義Ⅱ ニホンザルの社会構造と性について
- (エ) ニホンザルの観察
- (オ) 博物館見学
- (カ) チンパンジーの見学
- (キ) 発表と討論とまとめ
- (ク) 講義Ⅲ アフリカでのボノボ研究について



観察したことの発表

(4) 検証（成果と反省）

事後アンケートから参加した生徒は皆、このワークショップを楽しみにしており、面白かったと答えている。レポートからも、彼らが講義内容を理解しようとしたことがはっきりしている。

先生よりサルの社会について話を聞き、実際にニホンザルを観察してみると、サルの様々な行動を見つけることができ、サルに対する見方が変わりましたという感想を多くの生徒が報告していた。

生徒のアンケート、感想からも本物のニホンザルやチンパンジーを見る、彼らをしばらく観察するということは、授業ではできない貴重な体験で、当初の目的は果たされたといえる。理系生物選択者が対象だが、文系生徒にも参加させたい。

